

旭甘藷研究会が大田市場で見学研修を行いました

令和6年8月8日(木)に銚田市の旭甘藷研究会の会員8名が、カンショの流通や販売動向を学ぶため、東京都中央卸売市場大田市場で見学研修を行いました。

まず、市場の概要説明と紹介ビデオの視聴により、大田市場の概要や仕組み、市場で働く人の役割を知りました。

次に、茨城県産のカンショを多く取り扱っている東京青果(株)のカンショ担当者からカンショの販売動向を伺いました。そこでは、国内外でのカンショ販売が好調であることや、九州地方などの他産地での状況を聞くことができました。研究会員からは、「市場で取り扱われるカンショ品種は何が多いのか」、「ベニアズマやシルクスweetの評価はどうか」など、カンショの栽培品種に係る質問やトラックドライバーの労働時間が制限されることで起こる「物流の2024年問題」に係る質問があり、活発な意見交換が行われました。

最後に、大田市場青果棟の卸売場と仲卸売場を見学しました。仲卸売場では、スイカやバレイショのほか、8月上旬から出荷が始まった早掘りベニアズマや、シルクスweetが並んでいました。

鹿行農林事務所経営・普及部門では、今後もカンショ経営体の経営力向上について支援していきます。

銚田地域農業改良普及センター（成長産業）



意見交換の様子



市場内見学の様子